

4-(12) 産学官連携活動及び附置研究所の活動状況

本学では、地域社会や産業界との全学的な連携活動を通じて、多様な教育機会の提供を図るとともに、社会に対して際立った影響を与え続ける研究・社会貢献活動を展開している。

■共創デザイン室 [共創デザイン室 | 東北芸術工科大学 \(tuad.ac.jp\)](http://tuad.ac.jp)

地域の製造業・建設業・農業・観光などの振興を、本学のデザイン力・企画力・若い力でサポートするために、産業界との連携窓口として「共創デザイン室」を設置し、地域企業や行政機関等が抱える課題を解決する「受託研究」として、マネジメントスキルを持ったスタッフが対応している。

地元企業や行政機関等から委託を受けて、学生が地域社会や企業のリアルな課題に取り組む受託研究事業は、令和5（2023）年度61件にのぼった。

グラフィックデザインや商品企画、イベント企画等に加え、美術科の産学連携案件の創出（11件）は、学生に対するアートマネジメント教育という観点からも大きな成果となっている。

また、事業成果は各種メディアに取り上げられ、教育研究内容を広く社会に周知・還元することができており、受験生の志望理由の中でも、産学連携や地域と連携した活動を出願の動機として挙げている者も多く、学生募集にも大きく貢献している。

■高大連携事業の推進

山形県内の高等学校に本学教員が出張講義に赴くほか、高校内での課題発表会等に本学教員が出席し講評するなど、高校生に対して学びを深め学習意欲を喚起させる取り組みを積極的にこなしている。高等学校単位で本学の施設見学も随時受け入れており、高校生が多様な分野への興味を喚起させる契機のひとつとなっている。

美術部の高校生を対象とした「デッサン講習会」、文芸部の高校生を対象とした「文芸部研修会」なども開催しているほか、高校教員対象の美術研修会や文芸研修会も開催し、高校現場での教育内容に還元できるプログラムも実施している。山形県内の大学・短期大学等の連合組織「大学コンソーシアムやまがた」の一員として、高等学校への情報発信や交流、進学説明会の開催など、多様なニーズへの対応するための連携を深めている。

また、当事業では高等学校で探究科目を担当する教諭の研修・交流の場を「探究型学習研究大会」、探究型学習の成果発表の場を「全国高等学校デザイン選手権大会（デザセン）」として位置付け、本学がその拠点として全国に認識されることを目指している。

第7回となる「探究型学習研究大会」は、高校教諭のニーズに即したプログラムを構築し、234名の参加者を集めた。探究を教科科目に落とし込んだ実践事例や教科横断型のノウハウなどが発表され、参加者の好評を得た。

■全国高等学校デザイン選手権大会（デザセン） [デザセン | 東北芸術工科大学 \(tuad.ac.jp\)](#)

令和 4（2022）年度から全国の高等学校において「総合的な探究の時間」が実施されることになった。「全国高等学校デザイン選手権大会（デザセン）」は、高校生の視点で社会や暮らしのなかから問題・課題を見つけ、2名もしくは3名1組のチームで解決方法を分かりやすく提案し、講評と表彰を行う大会で、高校生の「デザイン思考」を高める本学ならではの取り組みである。従来、実業系の高等学校による参加と活躍が目立ったが、近年では進学校などからの参加も増加しつつあり、「探究型学習の成果発表全国大会」としての存在意義を高めている。

第 29 回（令和 5 年度）となる「全国高等学校デザイン選手権大会（デザセン）」は、全国から 612 チームの応募があり、審査を通過した 10 チームが決勝大会（オンライン）でプレゼンテーションを行った。その様子は、ニコニコ生放送及び YouTube でのライブ配信を通じて 9,400 人が視聴した。上位入賞チームは以下のとおり。

- 優勝 大阪府立淀商業高等学校／大阪府 「ワンチャンス」
- 準優勝 筑波大学附属駒場高等学校／東京都 「音楽で、繋げる」
- 第三位 香川県立高松東高等学校／香川県 「? ミステリーボックス？」

■美術館大学センター [美術館大学センター | 東北芸術工科大学 \(tuad.ac.jp\)](#)

本学は「芸術の心や文化を大切に思う心が、混沌とした現代社会を切り開く大きな力を持つ」とする建学の理念『東北ルネサンス』を掲げ、次代の芸術文化を担う人材育成に取り組んでいる。「美術館大学構想」は建学の志を具現化するため平成 14 年に想起され、キャンパス全域をオープン・エアー・ミュージアムとして地域に開いていくことを目標とし、「美術館大学センター」を立ち上げた。

本センターは平成 17 年度より、学内研究機関と共同で東北の風土に根ざした展覧会や、他地域とのネットワーク構築のためのシンポジウムを開催してきている。また、空洞化しつつある中心市街地や中山間地域、東日本大震災の被災地域でのアートプロジェクトに地域と連携して取り組んでいる。それらの集大成となる「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」を、平成 26 年度より隔年で開催している。

■山形ビエンナーレ <https://biennale.tuad.ac.jp/>

第 5 回目（令和 4 年）は、コロナ禍のためオンライン開催を余儀なくされた第 4 回（令和 2 年）の成果も踏まえ、対面とオンラインのハイブリッド方式により、4 年振りに中心市街地で開催し、来場者数は 7 万人を超え、県内外から数多くのアートファンや家族連れが訪れた。

令和 5 年度は、第 6 回「山形ビエンナーレ 2024」開催に向けての準備年度として、学長を座長とするディレクターズ会議を月に一度開催し、第 5 回及び第 6 回のビエンナーレに続く「いのち」をテーマとした三部作の集大成としてのコンセプトを策定した。

開催場所を本学と蔵王温泉街とすることに決定し、コンテンツを構成する主要なプロジェクトの立案や開催地の事前調査（ロケハン）、広報計画の策定などを実施した。また、開催地である蔵王温泉の観光協会との協力体制を構築するなど、引き続き開催準備を進めている。

■文化財保存修復研究センター [文化財保存修復研究センター | 東北芸術工科大学 \(tuad.ac.jp\)](http://tuad.ac.jp)

「文化財保存修復研究センター」は、山形・東北に遺された文化財の保存修復実務による地域への貢献と教育への還元を活動理念として、平成 13 年に設立され、以来、地域の自治体や博物館・美術館等、寺院・神社、コミュニティ等の委託を受け、絵画、彫刻、工芸品、歴史資料、埋蔵文化財を対象とした保存修復・保存科学研究を手掛けている。

施設・設備は東北唯一のものであり、実態顕微鏡、赤外線レーザー・クリーニング装置、デジタル・アナログ共用透過 X 線撮影・TV 観察装置、などの設備を設置しており、伝統を再度見直し、様々な地域文化遺産を次世代へ継承していく気運の高まりとともに、増加すると予想される文化財保存修復の受託・研究事業へのニーズに応えると同時に、社会的な貢献を目指している。

また、3D 計測器、3D 切削加工機などの設備も備えているため、デザインの分野でも積極的に設備を活用し研究を遂行している。

令和 5 年度は、東日本随一の総合的な文化財保存修復拠点の形成を目指して研究活動を展開し、26 件の修復事業を受託した。30 年計画で進行している鶴岡市・善寶寺五百羅漢修復事業は 9 年目となり、令和 5 (2023) 年度は 15 体の修復を終えるとともに、2 体の四天王像の修復を 3 年計画で進めている。保存科学の領域では、江戸幕府が所有していた大型蒸気船「順動丸」の鉄製外輪シャフト（重さ約 4 t）の保存処理を長岡市（新潟県）から受託し、糖類（トレハロース）を使用する方法を世界で初めて導入するとともに、海外からの講師招聘による講演や研究発表、技術移転の実技指導などを実施した。

また、文部科学省私立学校施設整備費補助金（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費）を活用し、文化財調査に必要不可欠である X 線 CT 撮影装置を導入したことで、調査手法や研究精度の向上、研究対象範囲の拡大が図られることとなった。

これらの取り組みは、生きた教育コンテンツとして、本学の特色ある教育研究の展開に不可欠な存在となっている。